

フォーラム「地球温暖化防止 企業の戦略的アプローチ：現状を打破する次の一手」

(2006年11月15日)

第1部：基調講演「地球温暖化・対策をめぐる世界の最新動向」

アトキソン・インク CEO アラン・アトキソン氏

持続可能性分野のコンサルティングのグローバル・ネットワーク、アトキソン・グループの創業者・CEO。数々のフォーチュン500企業をはじめ、米国防総省、ラトビア政府、WWF クライメート・チームなど、多くの民間機関、公的機関の戦略アドバイザーを務める。2006年より「地球憲章イニシアティブ」の暫定国際ディレクターを兼務。持続可能性指標分野の世界的な第一人者。主な著書に『カサンドラのジレンマ 地球の危機、希望の歌』(PHP 研究所)がある。スウェーデン在住。

概要：

- 地球温暖化を巡る世界の最新情勢
 - ハリケーン・カトリーナ
 - アル・ゴアの『不都合な真実』
 - スターン・レビューによる地球温暖化の経済分析など

- 地球温暖化の防止策
 - パカラ・ソッコローの「ウェッジ・ペーパー」
 - 各企業レベルでのアクション

- 地球温暖化対策投資の「3R」
 - リスク(Risk) — 脅威
 - 報酬(Reward) — ビジネス機会
 - 責任(Responsibility) — 企業倫理/ビジョン

第2部：「環境問題をシステムとしてとらえる

～こうして視野が広がった 私の体験的システム思考」

環境ジャーナリスト／(有)チェンジ・エージェント会長 枝廣 淳子

心理学を活かし、「自分や人を変える」技術を構築。講演、執筆、テレビ出演などのほか、NGOジャパン・フォーサステナビリティの設立者・共同代表や東京大学客員助教授(人工物工学研究センター)としての活動等を通じ、人や組織の「変化のプロセス」の研究・サポートを深める。開発、研修、ファシリテーションを担当するほか、講演、執筆の実績多数。訳書に『成長の限界—人類の選択』(ダイヤモンド社)、共著書に『地球のなほし方』(ダイヤモンド社)など。

概要:

- 私がシステム思考と恋に落ちた理由
 - 出会い
 - 何が私を惹きつけたか
 - 世界のシステム思考の状況

- システム思考は5000年後も通用する
 - システム思考とは
 - 知っておくべきシステムの特徴
 - システム思考が役立つポイント

- 温暖化をシステム思考で考える
 - 温暖化を生み出している4つのシステムとは
 - システム思考で次の一手を考えるポイント

第3部:「企業事例に学ぶ 温暖化防止への戦略的アプローチ」

(有)チエンジ・エージェント社長兼 CEO 小田 理一郎

人や組織が自律的に目的を達成する効果的な仕組みを作るため、2年間の米国留学で組織変革のスキルを学び、多国籍企業で10年間、製品責任者・経営企画室長として組織変革の実務にあたる。その後独立。企業の社会的使命の追求と非営利組織マネジメントの強化のためのコンサルティング経験を活かし、変化のマネジメントのための開発、研修、コンサルティング、ファシリテーション、講演、執筆を担当。

概要:

- 企業事例
 - 自社の環境効率を下げる
 - 環境効率を超える
 - 商品・サービスで温室効果を下げる
 - エネルギーを転換する
 - オフセットを活用する

- 会社を中から変化させるポイント
 - 「ポートフォリオ」アプローチ
 - 事業メリットのポートフォリオ
 - リスクのマネジメント
 - 倫理対経済性
 - 「学習する組織」